

これは僕が23歳の頃。場所は富山県魚津市です。当時の僕は靴職人の弟子として革の仕事を覚え始め、所持金が底をついたために富山県の半導体を作る工場へ出稼ぎに行っていました。そこでは4人1組で班を作って、出勤と退勤を1台の車で移動するというルールがあり、僕が入った班はたまたま皆が北海道出身の人で、周りは35歳~47歳の人たち。当然23歳の僕は一番の若手で、よく「なんでそんな若いのに工場に来てるの?」と訊かれ「靴職人の弟子だったんだけど、給料無いのでお金が無くなったから貯金しに来たんです」と答えていました。じゃあ、お金貯めたらどうするの?と訊かれると、なんとなく、ちょっと大きいことを言いたい年頃なものあり、ドイツの靴職人の弟子とかになれたら最高なんですけどねえ、みたいなことを喋っていたんです。するとその話をした2日後に、食堂で昼ごはんを皆で食べていると、札幌出身のYさんが「D山くん、ドイツ行きたいって言ってなかった?」と訊くので「まあ、はい。行ってみたいとは思ってますけど」と答えたところ「じゃあ、これ応募してみたら?」と、一枚のくしゃくしゃの新聞の切れ端を僕に見せてきました。そこには「フランクフルトの日本食のお店で働きませんか?」と大きな文字で書かれてあって、面接は札幌でやるとのこと。応募締切は1週間後でした。

ここで皆さんにちょっと考えて頂きたいんですが、23歳でドイツ語もわからんし、海外に行ったことも無い。なんとなく行けたら良いなあと思って軽く話していたことが目の前に出てきた時、どうします?正直なことを言うと、僕はかなり腰が引けました。そこで出た言葉が「まあ行きたいけど、まだそのタイミングじゃないっすよ」という逃げのセリフ。すると、僕の周りにいた年上のおっちゃん達に一齐に言われたのは「だっせえ。ぴびってんの?」でした。それを言われたら、まあね、そりゃもう決まりじゃないですか。「全然ぴびってないっすよ。じゃあ面接受けてきますわ」という謎の逆ギレをし、履歴書を送り、結果僕はその2ヶ月後に一人でドイツに飛びました。ただ、この話には特筆すべき部分があるんです。そのYさんが見せてくれた新聞の切れ端は「北海道新聞」のもので、当時、富山では手に入らないはず。僕が後日、Yさんに「なんで北海道新聞の切れ端を持ってたんですか?」と訊いたら「ああ、あれね。実家から茶碗を送ってもらった時に、たまたまあれに包まれてたんだわ」とのことでした。つまり新年早々僕が言いたいのは、些細なきっかけで人の人生って大きく変わるよね、というお話です。そんなわけで、明けましておめでとうございます。本年もトリノネ新聞をどうぞよろしくお願い致します。

2024年を振り返ったり、2025年を考えたりしてみます。

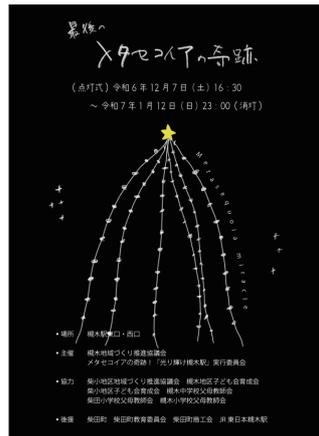
2024年6月から、まずは「柴田町にあるもので、新しい商品を作ろう」ということで動き始めました。現在、アオヤギ米、ブルーベリー蜂蜜、柴田町の桜の木チップで燻した岩塩を使った、オリジナルスパイスを販売中です（時期的に売り切れ多いけど）



「富上分館」にて「焼き菓子と民藝」のイベントを開催。特に仙台からのお客様が多く、のべ200名ほどの方々にご来場頂きました。

また、「みでがいん」のお米の直売イベントの際にはSNSで集客し5万回くらい表示されたのもあって、すごい数の方々に来て頂きました。

槻木市場のポスター、それと「メタセコイアの奇跡」のポスターを担当させて頂きました。



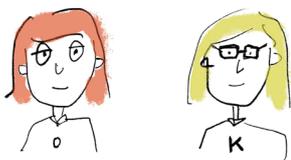
「槻木市場」に出店しました。こういうイベント増やしたいわーって思っています。

2024年12月現在では、まだシバタヌキの製品化が出来ていないので、これは2025年の宿題とします。



↓はこれから販売をする予定の柴田産の餅米を使ったもち粉と、雨乞の柚子を使ったバスソルトっぽいものの写真とイラスト。特にバスソルトは製品化までいけるのかわかりませんが、とりあえず自宅で実験中です。

オシル子 & モナ子



もち粉を使ったイベント名が「オシル子&キナ子」になると思います。



譲って頂いた雨乞の柚子を使って、商品開発中。食べ物を作るのは色々制限があるので、別のものに作り変えようかと思って、自宅は実験室になっています。



2025年は、なるべくいろんなイベントを開催したいなと思っているのと、新しい商品開発の方はアイデアだけはあるので、それをどう仕込むのかをじっくり考えなきゃなあの期間に入っております。そんな2024年度のもまとめてございました。



北海道の友人と一緒に、久々に石巻に行ってきました。石巻の友人たちは僕が柴田町に移住してくる前に知り合った人たちで、「実際に柴田町に引越してみてもう？」って話になったわけです。僕は「え、めっちゃ良いところだよ。自分にとっては、住みやすさが日本国内でトップレベルかもしれない」と答えると「えー、ほんとに？」という流れになります。その時に僕が答えるのが「仙台空港まで30分。新幹線が止まる駅まで30分。仙台駅、山形駅、福島駅まで車で1時間。雪もほとんど降らないし、渋滞も無いし、買い物に困らないし、野菜と果物が安いんだよ。これって凄くない？」と答えると、他の宮城県民もそこに気づいていなくて「え、めっちゃ便利じゃん」と驚かれるのです。特に旅行好きな人にとっては、すごく便利な場所にある町なので、産業を新たに作るというよりも「都会が苦手な旅行好きな人が住みやすい町」みたいなPRも、なかなか的を射ているんじゃないかなと思ったりしてます。

こちらに住んでいる人にとっては当たり前のことでも、移住者にとっては「え、そうなんだ？」ってことは沢山あるわけですが、最近一番驚いたのは「福島市」と「郡山市」についてでした。

名前の通り、福島県の県庁所在地は福島市なんだろうなと思って、ちょっと小旅行でも行ってみるかなと思ったんだけど、実際には郡山市の方が人口が多いんですね。たぶん、こちらの方々にとっては当たり前の話なのかもしれないですが、ちょっとこれは驚きました。

あと、2ヶ月くらい前に山形市に行き、帰りは川崎町に出る下道を通って帰ってきたんだけど、その山道がくねくねだし、なかなか道が狭くてこれ大変なところに来ちゃったなと思ったんだけど、どうやらあの箇所は皆、高速で一瞬で通り抜けることを知りまして、もう少し調べてから行けば良かったよと後悔したのでした。



- 編集後記 -

今回の表紙の文章、何を書くか迷ってました。本当はタイガーさんとリンリンのことを書こうと思ったけどそれは却下して、今回は趣を変えてみました。割とあんな話がちょくちょくあって、北フランスの田舎町で地元の若者にビールを奢ってもらったことがあり、その後、スペインに行ったときに知り合った人に「なんか、北フランスで男にビール奢ってもらったことない？」と訊かれて「ああ、あったよ」と答えたら「あはは、そいつ、俺の弟」って言われて驚いたことがあります。

トリノネのInstagram → id : torinone.store

トリノネ新聞の設置場所一覧（敬称略）

柴田町役場2階、しばたの未来（株）、仙台銀行船岡支店、ほっとファーム、アウトドアズマン、柴田町の4つの郵便局、ナルミキッチンラボ、仙台大学

発行者：柴田町地域おこし協力隊 山田和史
ご感想やご依頼などは ⇒ info@torinone.com へ
オンラインストア ⇒ https://www.torinone.com

同僚のおふたり



空き家対策の林くん 0224-54-2111 まちづくり政策課

今回、裏表紙を使ってリンリンの活動についての告知を書かせてもらっています。僕も時々庭終いの手伝いをさせてもらっているんですが、あの時のおっさん二人のじゃれ合いは、多分見ると面白いと思います笑



芸人のゆずさん

月に一度、3人で昼ごはんを食べてます。二人が食べる量を見ているだけで、僕はお腹いっぱいになるんだけど、彼らは食べても太らないんですよ。さあ二人とも、そのまま食べまくって、早くこっちの世界に来なさい。ずんぐりむっくりの世界にね。

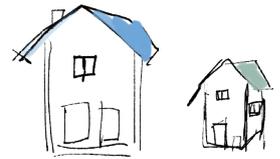
ゆずさんの SNS 達



同僚の林隊員が空き家対策の活動をしています。

空き家のお困りごとはありませんか？

「庭終い」承ります。



「庭終い(にわじまい)」とは、住宅の庭にある草木をなるべく全て刈り取る作業のことを言います。

住宅を売却したり、賃貸に出したり、もしくは解体するにしても、先に庭木の刈り取りをする必要がある場合が多く、なるべく安価で、そのお手伝いをさせて頂いています。

まずはお見積もりをさせていただきますので、この機会に一度検討してみませんか？

作業前



作業後



空き家バンクに登録しませんか？

庭終いと同様に、柴田町の空き家バンクへの登録もご検討下さい。使っていない空き家を買って、自分でリフォームをして住みたい、移住したい、という町外の方もいらっしゃいます。

また、賃貸での登録も可能ですので、ひとまずどのようなニーズがあるのかを確かめるためにも、一度柴田町の空き家バンクへのご登録も推奨しています。

柴田町地域おこし協力隊 林

070-8404-9814

shibata_base@outlook.jp

